

2020年11月

No. 35

書道教室 薬院 一凜  
sho-do ICHIRIN

繼續は力なり



月刊  
一凜



夢は美一ヨガヨ、  
希望は高キガヨ、  
夢も希望も捨てなければ  
必ず近づくべし

刻ムガヨ、



月刊一凜 No.35〈2020年11月〉

《競書審査員》佐々木峯雲 《発行》書道教室 一凜 薬院 《制作》野口昌芳(NS)



書道教室 薬院 一凜  
sho-do ICHIRIN

〒810-0022 福岡市中央区薬院3-7-25 原ビル2F  
TEL / 092-791-7251 FAX / 092-791-7786  
<http://www.shodo-ichirin.com/>

# 墨を擦る

文=岡田 雄希

正直言えば、俳句なんぞ一度

も詠んだことはなかつた。ゆえ

に招待された直後から不安に

かられて本屋に駆け込み「俳句

一四合目からの出発」(阿部

胥人著、講談社学術文庫)を

買ってむさぼり読んだ。俳句は

ずぶの素人だつたはずなのに

「何で四合目なの?」と突つ込まれそうだが、立ち読

みした段階で著者が「具象化に徹せよ」と強調して

いたことに引きつけられた。歌人の正岡子規も「写生」を重んじていた。今、テレビで活躍中の俳人で

エッセイストの夏井いつきさんも、そのようなことを

## 詩心は ないのですが…

十

二年前のことだ。西日本新聞社日田支局

長時代に地元俳句愛好者による日田俳句

観月句会では、短冊を渡され「十三夜もしくは月をお題にして五句投句してください」と指示された。参加

が決まってから携帯電話に書き留めていた句を書いたが、猛烈に緊張していたことだけは覚えていた。私を含む十八人が投句し、その中から

参加者が互選で七句を選ん

だ。最近、芸能人たちが高いレベルの句を詠んでいるが、天領日

田に住む俳句愛好家の句は格

調高くしかもハイレベルだった。

だつたがなぜか私の駄句も選ばれた。先日、ふと思い出したので恥ずかしげもなく披露する。

「ここからは自慢だが、字余り

だつたがなぜか私の駄句も選ばれた。先日、ふと思い出したので恥ずかしげもなく披露する。

「ここからは自慢だが、字余り

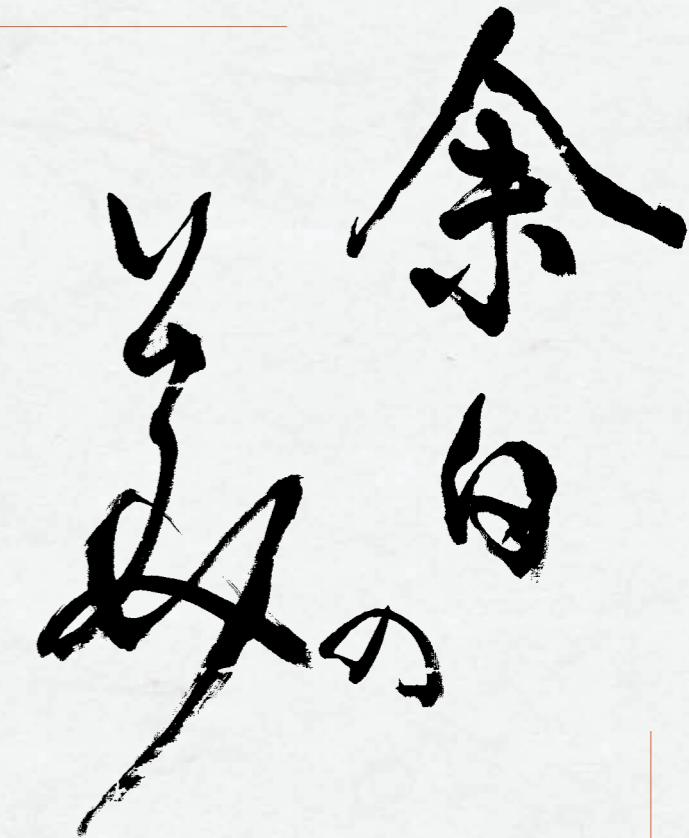
だつたがなぜか私の駄句も選ばれた。先日、ふと思い出したので恥ずかしげもなく披露する。

飲みあけて 見上げる杉の まっすぐに月

この時は短冊に万年筆の汚い字で書いた。あの頃は一

凜で書を学ぶことなど考えてもいなかつた。駄句だが、小筆でグラデーションをきかせながらサラサラと書いた

らかつこよかつただろうなーと、ひとり夢想している。



## 【四季と書と】

白の美はどうすれば学習できるのか

最近の書道展では自己主張や”はつたり“ばかりが目について、線質とは何か”が見えてこないものが多い。太い線ばかり又は細い線ばかりが走りまわつたものが多い。余白の美しさなど気にも止めていない。(中略)”書とはなにか”線とは何か”墨色を生かすとは何か”本当のところが理解できていない”先生”を多く感じる。自由が

闇歩する時代だけれどもテレビなどにまで目をそむけたくなるような作品

や書家は害であろう。もつとしつかり基本を叩き込んでからにしてほしいと思ふ場合が多くみられる。

書の定義は”書とは文字を素材として造形芸術である”書はもつと神聖なものである。書はその人間の全てで

化、墨と紙とのバランスなど一つ一つ研究することで全体が見えてくる。

どれか一つ得意そうに頑張つてもそれは全体の美しさをこわすことになる。つまり、一つ一つ分解して理解する時期が必要である。そして、それを名品の中で見つけて学習することが適切である。(中略)まず、線の鍛錬をすること。テレビで見る事のある太筆で墨を飛ばして書いている人達がいるが恰好だけ

非常に役立つことが述べられていますが、内容は一読しただけでは理解できないことが多いあるとは思います。

一つの字の各線をじっくり見て、練習を重ねることによって、線の違いや余白の美しさを理解する力が養われると思います。

書道研究一穂 豊島嘉穂先生の指導書抜粹

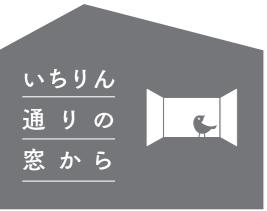
の楽しさは高校生まででよい。本当のた今までの理解の全てが表現されている筈のものである。字ばかり見たり、考えたり、形ばかり見ても本当のよさ、美しさは見えて来ない。余白の美しさは見えているかが問題である。(中略)また黒と白のバランスによれば、余白と余白の変化にも気を付けることも大切である。また、太い線と細い線の組み合わせによる余白美もある。このようなことをバラバラに分解してどう組み合わせるかが練習の結果生まれてくる。また、墨が練習の結果生まれてくる。また、墨の濃さによる変化、墨の量による変化、墨と紙とのバランスなど一つ一つ研究することで全体が見えてくる。

漢字の基本練習で唐の法帖を練習するにしても始めは一字を良く練習し

ましよう。そして分解して部分をよく見ましょう。始筆はどう入っているか、(中略)形が少し理解出来たら運筆もし変化をつけてみましよう。線に変化が見えるようになります。線と余白”とめ“はどのような筆圧で終わってい

るか、縦画も横画も良く見ましよう。

(中略)形が少し理解出来たら運筆も少しじつ變化をつけてみましよう。線に変化が見えるようになります。線と余白の広さ、線と線の太さのバランス、余白と余白のバランスが見えてくるまでしっかりと練習しましょう。



《縫》

今年の春の出来事。浄水通りのバス停(旧・九電記念体育館前)から、小学校高学年位の女の子が一人で乗車して来ました。乗車口近くの吊革を握る前に、さっと背負っていたリュックを前に抱え直しました。まるで小さな弟を優しく抱きかかえているような姿に思わずにっこり。おそらくこの女の子の御両親は、縫の教育もしっかりされているのだろうなと勝手な想像をしてしまいました。

私の父も縫に関しては“うるさい”親でした。靴の脱ぎ方。箸の握り方。ご飯の食べ方。

拭いたタオルの直し方。使った物の後片づけ等々。片付けと言えば、今でも忘れない父の迷言?があります。「暗闇の中でも何処に何があるが分かるように片付けろ」

厳しい縫のお陰で、行儀作法に関してはある程度常識を備えた大人にしてもらいました。

縫ではありませんが、一凛に来られる方の中には“立ち居振る舞い”的美しい方を時折見受けます。靴の仕舞い方、挨拶の仕方、荷物の籠への入れ方など、些細な所作でその人の品格を感じます。茶道の心得からなのでしょうか、月謝を扇紗に包んで出される方もいらっしゃいます。常に周りに気を配り、人に不快な思いはさせないように心がけたいものです。

そこで、リュックを使っている方への切なるお願い。冒頭の女の子を見習ってバスなどに乗った時は背中から降ろすよう掛けましょう。教室では玄関で降ろして入室しましょう。

書道教室 一凛 薬院  
佐々木峯雲



COVER ART  
Miki Furukawa

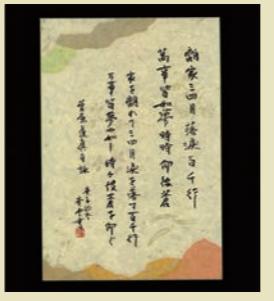
## 11月分課題

11月分課題は12月10日(木)が提出期限予定です。  
諦めることなく、コツコツと努力することが何より大切です。  
みなさん、今月も頑張りましょう。

硬筆

詰めたらもうひとつの初心に戻ることの大切さと「十」意味である。

かな



六段以上

漢字



六段以上 (隸書)



初段以上



10級～1級

●配布された手本に間違えがないか、  
上記課題一覧を必ず確認してください。

●硬筆の添削に関して

初段以上の方の添削は毎月1回限りとします。  
十分練習を重ねて仕上げた作品を添削依頼してください。

ここで害虫や菌などから自らの身を守っています。  
「チット」と呼ばれる揮発成分を自ら作り出し発散する  
土に根として生きる樹木は、移動できないため「アントン

10級～1級

## 「一凛の会書道展」無事に終了

### 《主催者からのお礼》

始まる前日までは「上手いくのかな?」と不安でしたが、蓋を開けてみると6日間の合計来場者は433名(アンケート協力409票)と、予想以上の結果に驚いております。これは、出品された50名の皆様の並々ならぬ努力の成果が導いてくれたものと実感しております。忙しい中、受付をして頂きました延べ46名の皆様のご協力に感謝申し上げます。



### アンケート結果上位者に喜びの声をいただきました！

#### 金曜日Aコース 本村 直美さん



この度は、素晴らしい書道展に参加させていただきありがとうございました。

素人の私が金賞を頂けるなど、夢にも思わなかったことで、身のすくむような気持です。

最初は、「海」という一字だから何とかなるだろう、という安易な気持ちで取り組み始めたのですが、これが案外難しく。

大きな字は全体のバランスがとりにくく、また先生のお手本のように波に乗ってサーフィンを楽しんでいるような滑らかなラインが出ず、四苦八苦。

体全体を使って書くという先生の教えをもとに、なんとか形にすることが出来ました。

おかげさまで、息子の拓海からは「スゲー」と羨望の眼差しを。私が書道を始めた動機の一つに、努力する母の背中を見せる、ということがあります。今回、これについて少し達成できたかな、と思っています。

今後も、「継続は力なり」を体现すべく、頑張ります。

#### 土曜日Bコース 石川 あゆ子さん

今回初めて漢字かなmajiri作品に挑戦しました。一つ一つの文字を何度も練習し、細かいところも丁寧に書くよう注意しながら書きましたが、全体的なバランスをとるのが難しかったです。少し残念な所もありますが、いい勉強になりました。

銀杏が散る秋の夕暮れの光景にぴったりな表装にしていただいて、素敵な作品になりました。ありがとうございました。



銀賞

#### 木曜日Cコース 堀田 司郎さん



この度の銅賞受賞を大変嬉しく思っております。書道教室に通い始めた動機は、どうしようもない悪筆からでした。当初はどうしても力が入り冷や汗をかきながら練習をしていた事を思い出します(多分二年程は)。教室十周年書道展にあたり、「大きな作品を書いてみると気持ち良いのでは」と思い、御目出度い言葉にしました。二文字であっても、線の強弱・カスレ具合等々、何度も何度も練習して途中で心が折れそうになり、後悔に似た思いが沸き上がってきた事もありました。その際には「継続は力なり」を胸に、佐々木先生にもご指導ご鞭撻と励ましをいただきながら、書き終える事が出来ました。書道展が終わった今は次に挑戦する作品を考えたりして楽しんでいます。

最後になりましたが、佐々木先生と開催にあたりご尽力された野口さん・生徒の皆様に感謝いたします。

### 努力賞

努力賞選出のポイントを佐々木先生にお答えいただきました。



金曜日Cコース  
土井 邦子さん

隸書(放の書体)はおろか行書も習っていないため大変苦労していました。一ヶ月間は楷書用の筆で隸書の基本の筆使いをパートごとに特訓。残り一ヶ月間で行書用の筆を使っての練習。教室の筆を借りて自宅での練習。書いても、書いても右払いがどうしても太くならず放棄寸前。しかし、最後まで諦めませんでした。



月曜日Bコース  
三浦 直さん

教室では最年少。15時からのクラスですが、仕上げの当日は急のため一つ前の12時30分から来て取り掛かることを勧めました。17時になんとも自分の納得いく作品が出来ず、1時間の休憩を挟んで結局21時まで仕上げに要しました。

合計7時間30分。黙々と書く姿に唯々関心させられました。